

ふじえだ 市議会 だより



平成29年11月5日

第204号

発行：藤枝市議会 編集：市議会広報広聴委員会

TEL 054-643-3552 FAX 054-646-2030

藤枝市岡出山1-11-1

<http://www.city.fujieda.shizuoka.jp/>

市ホームページよりお入りください



柗山川コスモスロード

M. Tsuketa.

「大洲柗山川コスモスロード」 画：塚本司雄さん

9 月定例会

平成28年度一般会計・特別会計・企業会計決算を認定

市議会9月定例会は、9月1日から29日までの29日間の会期で開催しました。平成28年度の一般会計歳入歳出決算や平成29年度一般会計補正予算など28議案が上程され、いずれも原案のとおり認定・可決・同意されました。

また、議員による発議案4件も原案のとおり可決し、継続審査となっていた請願1件については不採択としました。

なお、一般質問は9月7日、8日、11日の3日間で行い、平成28年度決算については、9月14日、15日、19日、20日の4日間で決算特別委員会を開催し、審査を行いました。

主な内容

- 決算特別委員会の審査…………… 2
- 常任委員会の審査…………… 5
- 9月定例会の審議結果…………… 6
- 本会議の討論…………… 8
- 常任委員会等の所管事務調査…………… 9
- 人事案件・議員発議…………… 10
- 一般質問…………… 11
- 11月市議会定例会の予定 …… 19
- 表紙の写真・イラスト等募集…………… 20
- 議会タウンミーティング開催のお知らせ… 20

決算特別委員会

9月定例会では、9月14日、15日、19日、20日の4日間で決算特別委員会を開催し、平成28年度一般会計・特別会計・企業会計決算を一括して審査しました。ここでは主な質疑の内容を掲載します。

平成28年度藤枝市 一般会計歳入歳出決算

歳入

問 交通安全対策特別交付金について、その用途が限られていると思うが、この交付金によって地元の要望にどの程度、応えられているか伺う。

答 各地域において主にカーブミラー、防護柵、道路照明、区画線等の整備に使われているが、これらについては、地元要望にはほぼ100%応えられている。



問 子ども・子育て支援交付金について、平成27年度に比べ、100万円超の増額となった理由を伺う。

答 平成28年度から新規事業として、妊娠出産婚活支援事業が加わり、その専従臨時職員の人件費の支出が主な増額理由である。



問 ふるさと応援寄附金について、平成28年度の総寄附件数、

寄附金に対する返礼割合、人気のある返礼品、及び増額となった理由を伺う。

答 総寄附件数は7万1355件で、返礼割合は約50%、人気のある返礼品はいちごや抹茶ゼラート、みかんなどの地場産品である。増額理由としては、主に3つあり、1つ目は、返礼品目数を約60品目から約800品目へ大幅に増やしたこと。2つ目は、首都圏への広報戦略が功を奏したこと。3つ目は、これまでのポータル

歳出

サイトは「ふるさとチョイス」のみであったが、さらに2つ増やし、3つのサイトを活用したことがある。



問 感震ブレイカー等設置推進事業費について、感震ブレイカーの設置状況、及び設置費用の助成についての周知方法を伺う。

答 平成28年度から県内他市町に先駆けに行った事業だが、平成28年度の設定件数は915件で、うち戸別住宅が903件、集合住宅が12件である。周知方法としては、テレビ、新聞などの報道メディアや、地域防災連絡会、防災研修会、出前講座などで、周知に努めた。



問 成年後見制度利用支援事業費について、制度を市民へどのように周知しているか伺う。

答 平成28年度は、成年後見制度について、藤枝市地域自立支援協議会の相談支援部会において相談

支援員を対象に研修会を開催し、相談を受ける側への制度の周知を図った。今後も、機会を捉えて、制度の浸透を図っていききたい。



問 家庭系生ごみ回収資源化事業費について、今後の事業推進の方向性を伺う。

答 臭気の問題が数年来あり、その都度対策を講じてきた。現在、臭気を抑える方法や現行の処理方法以外の手段など様々な角度から検証している。将来的には、生ごみ収集世帯数を広げ、不公平感をなくすように方向性を決めていきたい。



問 空き店舗開業支援事業費について、マッチングが難しいと感じるが、どのような対応をしているか伺う。また、平成28年度末の空き店舗と開業実績の詳細を伺う。

答 空き店舗の調査を行い、その結果のデータベース化を進めている。さらに、宅建協会と連携を図り、専門の不動産業者から情報発信をしている。空き店舗件数は76店舗ある。平成28年度は飲食店、花屋&カフェ、ワイン小売、美容院の4件で、いずれも駅周辺の空き店舗で開業した。



問 シティ・プロモーション施策の目標指標を踏まえた平成28年度の成果、また移住定住促進に向けた助成制度拡大策と転出抑制策について伺う。

答 定住促進と来訪拡大を目的として、全庁的に、個々の事業の中で「シティ・プロモーション」の趣旨を意識した上で、それぞれの取組を実施してきた。その結果、平成28年度においては、「転入者」に係る4つの指標は、それぞれ90%台を達成するとともに、来訪に関する指標「観光交流客数」は約109%となり、共に目標としていた数値を概ね達成して、一定の成果を上げている。特に、移住定住促進策として、空

き家バンクなど、定住者の受け皿となる施策を引き続き展開するとともに、市外から転入する子育てファミリー世帯への移転費用等の助成や、新婚世帯への新居費用等の助成を新たに創設し、実施したところであり、本年度は、これらの対象者をさらに拡大して促進を図っている。



問 地域包括ケア推進事業について、平成28年度の進捗状況及び関係団体との連携状況について伺う。

答 地域包括ケアシステムの中でも、まず、医療・介護の連携推進に向けて、「地

域包括ケアシステム専門会議」を中心に取組を展開した。在宅医療コーディネーターを配置し、円滑な在宅療養へのつなぎを行い、また、口腔ケアとりハビリの普及に努めた。次に、生活支援体制整備に向けた取組として、第1層の生活支援コーディネーターを配置し、「地域ふれあいガイドブック」の作成や市民フォーラムの開催など、支え合いの地域づくりを推進した。また、日常生活圏域を担当する第2層の生活支援コーディネーターの配置と協議体の設置の準備を進め、本年4月のコーディネーターの配置に結びつけた。加えて、要支援相当の人の、「介護予防・日常生活支

援総合事業」への移行作業として、介護事業所への説明会などを行い、利用者が選択可能なサービス環境の整備に努めた。これらの事業は、全て市立総合病院や医師会を始め介護保険事業所などと協議を重ね、さらに、地区社協などの関係団体の意向を尊重しながら進めてきたので、連携はしっかり図られている。



平成28年度藤枝市
国民健康保険事業
特別会計歳入歳出決算

問 特別調整交付金について、保険者努力支援制度（前倒し分）でどのように評

価されたのか何う。

答 評価項目は16項目あり、がん検診等の受診率、糖尿病等の重症化予防の取組、個人のインセンティブへの取組、重複服薬者に対する取組など11項目に満点評価をいたしたき、全国平均の198・67点を大きく上回る345点満点中、270点であった。



平成28年度藤枝市
公共下水道事業
特別会計歳入歳出決算

問 投資効果を高めるため、下水道への接続を促進するための取組はどうか何う。

答 平成28年度は未

接続である491戸を個別に訪問した結果、233戸が下水道に接続した。今後も加入への促進を図っていく。



平成28年度藤枝市介護保険
特別会計歳入歳出決算

問 認知症初期集中支援推進事業で、認知症サポート医、認知症対応医の体制について何う。

答 認知症サポート医は、志大医師会から5名、対応医については3名、計8名の医師と一緒に初期集中支援チームを運営している。



平成28年度藤枝市
病院事業会計決算

問 平成28年度経常収支3億9千万円余の赤字の要因について何う。

答 平成29年度からの救命救急センターの指定を見据える中で、4対1看護体制を整えるために、看護師の確保に努めた結果、人件費が増加したことが、大きな要因である。



問 貸借対照表にある貸倒引当金について、前年度比で600万円ほど減少した要因を何う。

答 毎年不納欠損の

対象としていた未収金について、平成28年4月よりその取り扱いを弁護士事務所が委託したことで、欠損対象を弁護士が回収困難と判断したものの、当方で自己破産および本人死亡で回収不能となったものに限定したことが、主な要因である。



平成28年度藤枝市
水道事業会計決算

問 上水道の有収率が90%近い高い数字であるが、その要因を何う。

答 給水管の漏水調査を積極的に実施し、発見した宅地内の漏水については、職員が個別訪問をして修

理を促している。また、本管については、石綿管など漏水しやすい古い管の更新が進んだことが大きな要因である。



決算特別委員会の様子

常任委員会の審査

各常任委員会で行われた平成29年度補正予算や条例制定などの審査の中から主な質疑の内容をお知らせします。

総務文教委員会

問 「平成29年度藤枝市一般会計補正予算(第2号)」
土地等購入費について、法務局跡地の庁舎機能の移転の用途を伺う。

答 主に課税、児童手当、介護、後期高齢者等の業務に係る通知の発送事務や書庫・倉庫として使用する予定である。相談業務など、市民を対象とした業務については、現在、検討中である。

問 働き方・人づくり改革推進事業費について、組織マネジメント強化を図るための研修内容を伺う。

答 管理職を対象に、適切に職場をマネジメントすること、職員が働きやすい環境をつくるための研修、主幹・係長級を対象とした、タイムマネジメントや業務スクラップ等の意識改革を目指す研修、非常勤職員を対象とした、接遇やコンプライアンスを含めた総合的なスキルアップ研修を予定している。

問 藤枝市産学官連携推進センターの指定管理者の指定について、指定管理者選定委員会では、どのような意見が出されたか伺う。

答 食メディアラボとセミナールームとの有機的な連携や、それらの有機的な連携をいかに深めていくかという質問があり、食メディアラボで行う地産地消事業に対しては、学生参加や連携強化について、高い評価をいただいた。



現地調査の様子(第12分団詰所)

健康福祉委員会

問 「平成29年度藤枝市一般会計補正予算(第2号)」
あかちゃん駅の設置場所の市民周知をどのように行うか伺う。

答 新しく設置する場所については、現在、設置されている46カ所とあわせて、市ホームページや子育て支援サイト「ママフレ藤枝」を活用し周知していく。

問 子育て支援施策PR事業費についてPR動画の内容と制作・公開の方法及びその効果について伺う。

答 子育て支援センターやあかちゃん駅、親子で遊べる公園等の施設、あるいは、子ども連れにやさしいサービスがあるお店の情報等を動画として撮影、制作し、今年度中にホームページ、SNS上で公開していきたい。

こつした施設情報により、外出を控えていた子育て家族に、施設利用への不安を解消するとともに、子育て支援施設のさらなる有効活用、利用促進を図られると期待する。



現地調査の様子 (アクシア藤枝)

建設経済環境委員会

問 「平成29年度藤枝市一般会計補正予算(第2号)」
河川総務費について

問 今回の補正理由と内容について伺う。

答 各地で集中豪雨による被害が発生している中で、水位計の不足が指摘されている。当市でも危機管理等の点からも更なる増設の必要性が高まってきたことから、今回、準用河川4ヶ所、2級河川4ヶ所に設置を予定している。

「平成29年度藤枝市内陸フロンティア事業特別会計補正予算(第1号)」

問 5億円の基金を設置し、事業を開始するが、今後の事業費を含めた内陸フロンティアの事業展開について

答 事業期間は平成33年度までを予定している。全体の事業費は35億円程度が見込まれる。県が地元から土地を買収し造成した後に、これを市が買い受け、進出企業に売却をしていくが、今回、設置する基金の中で資金管理をしていく。



現地審査の様子 (水位計設置予定場所の確認)

平成29年9月定例会で審議された議案等

◆全会一致で原案認定・可決・同意と認められた議案

議案番号	案 件
認第1号	平成28年度藤枝市一般会計歳入歳出決算の認定について
認第2号	平成28年度藤枝市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認第3号	平成28年度藤枝市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認第4号	平成28年度藤枝市土地取得特別会計歳入歳出決算の認定について
認第5号	平成28年度藤枝市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認第6号	平成28年度藤枝市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認第7号	平成28年度藤枝市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認第8号	平成28年度藤枝市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について
認第11号	平成28年度藤枝市水道事業会計決算の認定について
第77号議案	平成29年度藤枝市一般会計補正予算（第2号）
第78号議案	平成29年度藤枝市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）
第79号議案	平成29年度藤枝市公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
第80号議案	平成29年度藤枝市介護保険特別会計補正予算（第2号）
第81号議案	平成29年度藤枝市内陸フロンティア事業特別会計補正予算（第1号）
第82号議案	藤枝市職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例
第83号議案	藤枝市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
第84号議案	藤枝市集会所設置条例の一部を改正する条例
第85号議案	藤枝市内陸フロンティア事業特別会計条例
第86号議案	藤枝市内陸フロンティア事業基金条例
第87号議案	市有財産の取得について（路線バス用大型ノンステップバス1台）
第88号議案	市有財産の譲与について（藤枝市田中集会所）
第89号議案	藤枝市産学官連携推進センターの指定管理者の指定について
第90号議案	平成29年度藤枝市一般会計補正予算（第3号）
第91号議案	公平委員会委員の選任について
第92号議案	固定資産評価審査委員会委員の選任について
第93号議案	教育委員会委員の任命について
発議案第43号	北朝鮮の度重なる核実験に強く抗議し、断固とした措置を求める意見書
発議案第44号	「道路財特法における補助率等の嵩上げ措置の継続」に関する意見書
発議案第45号	地域医療を守るため不採算部門を受け持つ公立病院の消費税分の地方交付税措置を求める意見書
発議案第46号	小中学校におけるプログラミング必修化に対して支援を求める意見書

◆賛否の分かれた議案◆

○賛成 ×反対

議案番号	議員名（議席順） 案件・結果	遠藤久仁雄	平井登	鈴木岳幸	池田博	多田晃	油井和行	松崎周一	山根一	山本信行	大石保幸	石井通春	大石信生	小林和彦	萩原麻夫	杉山猛志	天野正孝	岡村好男	遠藤孝	植田裕明	水野明	数崎幸裕	西原明美	
		不採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請第6号	浜岡原子力発電所に関する請願	不採択	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	○	○	×	×	×	×	×	※
認第9号	平成28年度藤枝市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※
認第10号	平成28年度藤枝市病院事業会計決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	※

※議長は採決には加われません。

請願について

6月定例会において継続審査となった1件の請願について、採決の結果、不採択となりました。審議の過程での一部を掲載します。

浜岡原子力発電所に 関する請願（抜粋）

巨大地震源域の真上に位置し、世界で最も危険な原子力発電所と言われている浜岡原子力発電所に対し、藤枝市議会が平成23年12月16日に決議した「中部電力浜岡原子力発電所に関する決議」の「浜岡原子力発電所は絶対的安全対策がなされ、市民の安全と安心が担保されない限り再稼働は認められない。」とする内容に沿って意見書を作成し、政府及び関係省庁へ送付していただきたい。

総務文教委員会での 審議の過程（抜粋）

6月20日（6月定例会）
請願代表者2名に本委員会への出席を求め、請願

者へ質疑する方式で審査を進めた。

請願の趣旨説明

藤枝市議会が平成23年12月に決議した内容に沿って、市民の意思として意見書を作成し、政府および関係省庁へ送付していただきたい。

請願の審査

決議から6年近く経過し、状況も変化していることから、専門家から意見等を伺い、現状を調査し、見識を深めながら議論を進めたらどうかとの意見が出され、継続して審議することを求める意見が過半数を占めた。

その結果を受けて6月定例会閉会後も引き続き、本請願の審査を行うため、議長に『閉会中継続審査申出書』を提出すること

とした。

6月26日（閉会中継続審査）

7月10日と8月7日の両日に、関係機関への調査を実施することとした。

7月10日（閉会中継続審査）

浜岡原子力発電所の安全対策の現状等について調査を実施した。

8月7日（閉会中継続審査）

原子力防災センターにおいて、原子力災害に対する安全対策や周辺地域の防災対策等について調査を実施した。

8月16日（閉会中継続審査） 請願の審査

・原子力発電所事故が発生した場合、広域的な避難経路等を図に示していたきたい時期にきているので、決議を

意見書として、政府や関係省庁に提出することとは、非常に有効であると考ええる。

・今回の請願により、原子力発電所の安全性等について改めて認識を深める機会を得た。採決の結果に関わらず、さらに原子力発電電に対し、考えていかなければならない。

以上のような審査を経て、採決の結果、不採択すべきものと決定した。

※本会議での討論は、次ページに掲載していただきます。

藤枝市議会

ひとこと解説コーナー

シティ・プロモーション

地域再生、観光振興、住民協働など様々な概念が含まれている。捉え方は多々あるが、その一つは、そこに住む地域住民の愛着度の形成と考えられる。その先には、地域の売り込みや自治体の知名度の向上と捉えることもできる。

内陸フロンティア

防災・減災と地域の成長を両立させた魅力ある地域づくりを実現するため、「内陸フロンティア推進区域」を設置し、新産業等呼び込む取組み。

感震ブレーカー

大地震が発生した時に、自動的に電気の供給を遮断し、停電復旧後などの電気が原因による火災を防ぐもの。各家庭に設置できる。

藤枝市産学官連携推進センター

「産業を育てる」「人材を育てる」「産業と人材をつなぐ」を目的に、ICT活用も含めた地域産業の振興やビジネス創出、学生の地元定着を図るワンストップ拠点。BiVi藤枝内に静岡産業大学駅前キャンパスと一体的に設置。

閉会中継続審査

会期中に議案などの審査を終了することが困難な場合に、議会の議決によって会期が終了した閉会後も引き続き委員会で審査を行うこと。

本会議の

討論

9月定例会では、賛否の分かれた議案すべてについて、討論が行われました。
ここでは、その一部を掲載します。

浜岡原子力発電所に 関する請願

賛成 遠藤久仁雄議員

この請願の内容が、浜岡原子力発電所の絶対的安全対策がなされ、市民の安全と安心が担保されない限り再稼働は認められないというものであり、藤枝市民の多数意志であることを確信しているため賛成する。

反対 植田裕明議員

藤枝市議会において、意見書の提出は全会一致を原則としている。浜岡原発の絶対的安全が担保されない限り再稼働は認めないという点では一致しているが、原発自体の各議員の考えはさまざま、再稼働に対して賛意と反対とが混在する状況では、

意見書本体的見解一致とはならず、全会一致の原則にそぐわないものと考えられるため反対する。

賛成 石井通春議員

この請願の願意は、2011年藤枝市議会が全会一致で決議した内容の意見書を作り国に送ってくださいという、それだけのものである。原発自体に対する議員の考えに相違があるという反対理由は趣旨を捻じ曲げており、請願者が廃炉を求める署名をしているとの反対理由も、憲法の基本的人権（請願権）を理解していないため賛成する。

反対 数崎幸裕議員

藤枝市の議員の中には、国全体のことを考えた上での原発容認派もあれば、

平成28年度藤枝市後期 高齢者医療特別会計歳入 歳出決算の認定について

反対 大石信生議員

高齢者が75歳になると他の保険から切り離されて、一つの保険に囲い込まれるというような制度は世界に類例がなく、高齢者差別を基本的性格とする制度はあってはならない。

い。また、75歳になると、多かれ少なかれ例外なく医者にかかるようになる。いわば事故率100%であるから、75歳以上を囲い込む保険制度は、原則成り立ちようがない。高齢者が増えれば増えるほど、保険料はうなぎのぼりに上がっていく、給付内容は限りなく切り下げられることになる。制度設計の基本に、重大な誤りがあるため反対する。

賛成 鈴木岳幸議員

後期高齢者医療制度は、導入から9年が経過し、制度が一般的に定着したといえる。

現役並みの所得を得ている方以外は、窓口負担を1割にするなどの対応がされており、内容については利用者の事を考慮しており、理解が得られているものと解している。

国民皆保険の持続性の観点からも、世代間扶助の精神からも最適な方法であることは明らかであり、

最適な方法にのっとりて処理されたこの平成28年度会計の内容は、職員・担当者の大きな努力のもとで、適正に行われたものであると考えるため、賛成する。

平成28年度藤枝市病院 事業会計決算の認定に ついて

反対 石井通春議員

反対理由は、当該決算年度に決定された病院給食の民間委託について、委託により病院の負担が2000万円強増えること、市民にまったく知ら

さず進めたこと、現場の臨床栄養科が直営継続の決定をしたのに覆したこと、栄養士の募集を怠り人員不足に陥らせたこと、病院食の質の向上はあり得ないこと、等々である。委託に関する病院の議会答弁も二転三転、矛盾に満ちており、行政のチェック機能としての議会は本決算を認定すべき

ではない。

賛成 植田裕明議員

本病院事業の平成28年度決算を総括すれば、現時点で想定される厳しい医療環境の将来を見据えて、並々ならぬ努力をし、心血を注いできたものと高く評価するものである。また、病院給食を委託することにより、管理栄養士が元の職場に戻り、栄養指導を行うこと、本来業務に専念することは、適正な食事療養にとって非常に重要である。厳しい医療環境となることを想定し、静岡県が策定する地域医療構想に基づき、2025年問題にも対応できるよう、懸命に努力し、心血を注いできたのが、平成28年度決算の総括であり、高く評価すべきものと考えられるため賛成する。

常任委員会等の所管事務調査

各委員会では、先進都市等の視察を行っています。

》 議会運営委員会

平成29年
7月12日～13日

- 滋賀県野洲市
議会改革への取り組みについて
- 京都府長岡京市
議会改革への取り組みについて



》 議会改革特別委員会

平成29年
10月3日～4日

- 兵庫県西脇市
議会改革の取り組みについて
- 大阪府大阪狭山市
通年議会について
議会改革の取り組みについて



》 広報広聴委員会

平成29年
8月8日～9日

- 群馬県前橋市
広報広聴戦略プランについて
- 東京都羽村市
議会だよりと広報全般について



》 総務文教委員会

平成29年
8月2日～4日

- 新潟県三条市
マイナンバーカードの普及と独自サービスについて
- 福島県会津若松市
スマートシティ会津若松について
- 総務省
業務効率化・生産性向上のための霞が関オフィス改革について

平成29年
10月12日～13日

- 岩手県紫波郡矢巾町
矢巾町学校給食共同調理場について
- 青森県八戸市
八戸ブックセンターについて



》 健康福祉委員会

平成29年
7月31日～8月2日

- 奈良県生駒市
地域包括ケアシステムの構築について
- 岡山県岡山市
オレンジプラン（認知症施策の指針）について
介護予防・日常生活支援総合事業について
- 兵庫県相生市
子ども・子育て応援施策について

平成29年
10月12日～13日

- 大阪府高槻市
生活困窮者支援への取り組みについて
- 滋賀県彦根市
生活困窮者支援への取り組みについて



》 建設経済環境委員会

平成29年
8月2日～4日

- 兵庫県豊岡市
地域主体交通「チクタク」の取り組みについて
- 京都府京丹後市
住民タクシーについて
- 愛知県日進市
ごみ分別収集の取り組みについて

平成29年
10月12日～13日

- 茨城県日立市
地域公共交通の取り組み等について
- 千葉県市原市
有害獣対策等について



人事案件

次の人事案件について、同意しました。

●公平委員会委員

青島満博さん（青葉町）

●固定資産評価審査委員会委員

増田和宏さん（駅前）

●教育委員会委員

浅井好美さん（高田）

可決された議員発議

今定例会において、議員提出による発議案（意見書4件）が提出され、原案のとおり可決しましたので、その要旨をお知らせします。

◆発議案第43号

北朝鮮の度重なる核実験に強く抗議し、断固とした措置を求める意見書

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）は9月3日、通算6回目の核実験を実施した。「核兵器のない世界」の実現を求める国際社会の再三にわたる制止を無視して核実験を強行したことは、国際社会に対する挑戦行為そのものであり、断じて許すことのできないものである。

本議会は、北朝鮮の核実験に強く抗議するとともに、国におかれては、国民の安全を脅かす暴挙が二度と繰り返されることがないように、国際社会と連携し、北朝鮮に対して核兵

器の廃絶に向け断固とした措置を講じられるよう強く要望する。

◆発議案第44号

「道路財特法における補助率等の高上げ措置の継続」に関する意見書

「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」（以下、道路財特法）の規定による補助率等の高上げ措置が平成30年度から低減されることは、地方創生の実現はもとより、自治体運営にも多大な影響を生じることになる。

来年度以降も迅速かつ着実な道路整備を促進するため、次の事項を強く要望する。

1 道路整備を計画的かつ着実に推進するため、社会資本整備総合交付金や防災・安全交付金について、安定的かつ十分な予算を確保するとともに、道路財特法の補助率等の高上げ措置については、平成30年度以降も継続すること。

◆発議案第45号

地域医療を守るため不採算部門を受け持つ公立病院の消費税分の地方交付税措置を求める意見書

国民の生命と健康を守ることは国の責務であるところから、不採算部門を受け持ち、地方医療を支えている地方公共団体の公立病院に対し、欠損金となる消費税分の地方交付税措置を講じるよう、強く求める。

1 不採算部門を受け持つ公立病院に対して欠損金勘定となる消費税額に対して地方交付税措置を講ずること。

◆発議案第46号

小中学校におけるプログラミング必修化に対して支援を求める意見書

IoT（モノのインターネット）の活用分野は日々拡大しており、ICT（情報通信技術）の発展も著しいものがあることから、時代に対応した人材の養成とITスキルの習得は不可欠である。

従来、小中学校におけるIT機器の整備は、主に地方自治体に委ねられてきたものの、自治体の財政力などにより整備状況に格差が生じているのが実状である。今後のIT人材の養成に必要なプログラミング教育での円滑な運営に向けて、次の3点について要望する。

1 早期にプログラミング教育における指導の概要について明らかにすること。

2 円滑な指導を行うことと、自治体間の格差を是正するために必要な財政措置を実施すること。

3 民間の人材を活用する際や、小規模な自治体などにおいて適正な人員配置が困難な場合には、広域での対応を認めるなど、弾力的な人材配置を可能とすること。

藤枝市議会

ひとこと解説コーナー

バイオマス

生物資源（bio）の量（mass）を表す概念で、一般的には「再生可能な生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの。」バイオマスから得られるエネルギーのことをバイオエネルギーまたはバイオマスエネルギーという。

IoT

インターネット・オブ・シングスの略。モノのインターネット。従来は主にパソコンやサーバー、プリンタなどのIT関連機器が接続されていたインターネットに、それ以外の様々なモノを接続すること。

4対1看護体制

看護職員1人あたり、4人の患者さんを受け持つという看護体制。

放射線治療装置リニアック

日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器。放射線治療では体の内部の腫瘍を治療するために検査（エックス線・CTスキャン）で用いられる放射線よりもはるかに高いエネルギーの放射線を用いる。

消化ガス発電

汚泥から発生する消化ガスを、電気や熱エネルギーとして有効活用するシステム。

行政について

- 空き家のおかれている現状と庁内体制について… 11
- IoTを活用した豪雨対策にむけて …… 11
- 洪水等による危機管理について…… 12
- 東京2020オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ文化の交流と外国人来訪者への対応の取組みについて…… 12
- 平和のための資料の保存。平和資料館(室)の常設を…… 12
- 「小規模工事・修繕受注希望業者登録制度」の新設を…… 12
- 『地域エネルギービジョン実施計画 (H28～H32)』の進捗を伺う…… 13
- 土砂災害や河川の治水対策、橋梁の修繕工事は 13
- 旧アピタ藤枝店の建物取り壊しと今後について 13
- シティ・プロモーション事業について…… 14
- 産業としごとを創る健康都市について…… 15
- 広域連携の強化について…… 15
- 空き家・空き店舗の現状と対策について…… 16

- 高すぎる国保税の値下げを求め、広域化で値上げをしない取組を…… 17
- 介護保険制度改正に伴う課題について…… 18
- 藤枝市の働き方改革について…… 18
- 人口動態から見る藤枝市の未来への市政の展開… 18

健康・病院について

- 特殊出生率向上に向けて…… 13
- 妊活の支援について…… 14
- 健康施策のさらなる推進について…… 17
- 厳しい医療環境が想定される今後、病院事業の経営戦略について…… 17

環境について

- 環境問題について…… 14
- 藤枝市の環境問題について…… 16
- 駿河台地区のカワウ被害と今後の対策について
～果たして住民の生活を守ることができるのか～… 16

※質問内容については、それぞれのページをご覧ください。



志太創生会

小林 和彦 議員

空き家のおかれている現状と庁内体制について

問 空き家の実態調査は現在どのような体制で取り込まれてい

るか

答 平成27年度に自治会の協力を得て、地域における空き家の位置や戸数を調査し、空き家情報については、データベースにより一元的に管理し、職員による現地確認により、その都度更新をしている。

問 相談窓口での相談内容について

答 空き家に関する相談のうち、売却に関するものが6件、草木の繁茂等による生活環境の悪化に関するものが14件、老朽化によるものが11件であり、所有者に改善を指導したところ、4件の空き家は立木の伐採等により改善が図られ、6件の空き家が解体された。

問 空き家撤去後の固定資産税減免措置及び解体補助制度について

答 空き家を解体して更地にすると宅地としての固定資産税の軽減措置が受けられなくなり、税負担が増すことや、解体そのものに多額の費用を要することが、解体が進まない理由の一つだと言われている。今後、本市独自の減免制度を創設し、解体に関する

支援制度も創設していきたい。

問 空き家の利活用の取り組みについて

答 高齢者の居場所づくりやサロン、子育て支援、或いは地域コミュニティーの維持のために利活用できるように、国の補助制度を活用し、改修費を助成し、空き家の利活用を促進するため積極的に取り組んでいく。



空き家の現状

IoTを活用した豪雨対策にむけて

問 本市にとって観測情報の共有は重要と考えるが県の連携を伺う

答 県から観測データの提供依頼が来ており、本市と県との情報共有の方法について協議していく。

問 消防団等との連携及び観測情報の共有について

答 消防団との連携強化を図る上で、詳細な観測情報の共有が重要であることから、市HPで観測データを公開し提供して、スマホ等でも閲覧できるようにしていく。

問 水位計及び雨量計の拡充について

答 水位計や雨量計設置箇所については、十分な検討を重ねて設置しているが、今後、観測を継続していく中で、データの収集に不足が生じる場合には、増設していくとともに、早急にシステムが稼働できるように努めていく。



公明党
山本 信行 議員

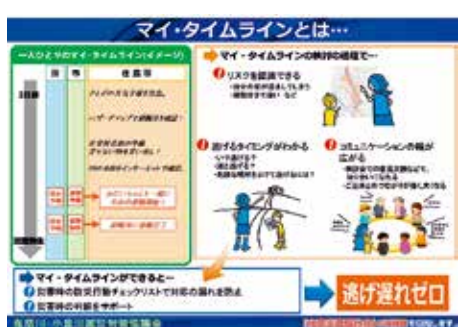
洪水等による危機管理について

問 IoT通信基盤を生かした河川の水位計や雨量計の新設及び官民の事業展開について伺う。

答 雨量計、水位計を増設して、市内全域をカバーする観測体制を整えるとともに、議員の質問にもあった、鬼怒川の堤防決壊を教訓に、常総市をモデル地区とした「マイ・タイムライン」を本市にも導入していきたい。

問 「マイ・タイムライン」を導入していくとのことだが、どのように進めていくか伺う。

答 まずは、広報ふじえだや、市のホームページへ掲載し、その後、地区防災連絡会や出前講座などを利用し市民に説明、周知をしていく。



鬼怒川・小貝川 マイ・タイムライン

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツ文化の交流と外国人来訪者への対応の取組みについて

問 文化プログラムを推進する支援体制を伺う。

答 国では、3つの認証プログラムがあり、認証を取得すれば、ポスターやチラシなどへの公式マークや呼称の使用が許されるだけで、事業費等の助成はない。県では文化プログラム静岡県推進委員会を立ち上げ、事業経費の一部を負担する支援制度を作った。

問 外国人旅行者含め、わかりやすい案内用図記号(ピクトグラム)を、どう活用するか伺う。

答 経済産業省が7月に国際規格のピクトグラムの公表を受け、県で観光案内標識整備ガイドラインを作成し、本年度中に公表する予定で、これを参考に、表示場所や表示方法を検討していく。

問 今回、国際規格となったピクトグラムの中に、ヘルプマークも含まれるが、どう活用していくか。

答 本市では伝えてカードがあり、当面は併用していく。その後ヘルプマークに統一していきたい。

問 SNSを活用した各部署ごとの発信や、外国語での情報発信を行ってはどうか伺う。

答 現在、市のホームページの藤枝トリップで4カ国語の発信をしている。今後、外国の方への情報の発信が効果的か研究していく。



日本共産党
大石 信生 議員

平和のための資料の保存。平和資料館(室)の常設を

問 今年、長崎の平和祈念式典に市内中学全10校から参加した代表の感想文朗読を聞いて、深い感銘を受けた。若い瑞々しい感性が、原爆資料館などにふれて如何に平和に対する深い認識を持ったか。平和教育の原点がここにある。一方、市民団体が開いた平和展にも貴重な資料が多数展示された。これらの資料は収集した個人が亡くなれば、保存が難しくなる。広島県・福山市に常設の「平和資料館」があったが、本市も「平和資料館(室)」を展望しながら、散逸する危険のある平和のための資料を積極的に収集、保存、展示していく仕事が必要ではないか。

答 戦争体験と記憶を次世代に伝えていくことは大切で、郷土博物館には「戦争中の暮らし」コーナーや市内に投下された爆弾の破片なども展示してある。また平成27年には「太平洋戦争と藤枝の人々」特別展を開いた。資料の収集にも努めてきた。

問 郷土博物館の近・現代のコーナーは狭いし、市はもっと積極的に平和のための事業をやるべきだ。

答 市民団体とも連携し、収蔵場所も検討する。



帰ってきた遺骨(瀬戸川) 塚本清一氏蔵

「小規模工事・修繕受注希望業者登録制度」の新設を

問 これは、未だ建設業許可や入札参加資格を持つまでになっていない市内の小規模業者に受注機会を与え、市が支援していく制度である。市に登録し、ここに小さな工事や修繕を発注する。すでに全国4分の1近くの自治体が制度化している。これから起業していこうとしている市民も含めて、小さな事業者を育てていくためにも、ぜひ制度化したらどうか。

答 できる限り幅広く市内の小規模業者を発掘し、受注機会の拡大につなげていきたいと考える。この制度設計に取り組んでいく。



志太創生会

平井 登 議員

『地域エネルギービジョン実施計画(H28～H32)』の進捗を伺う

問 本計画では平成23年3月の福島第一原発事故の教訓から、太陽光・バイオマス等の地域資源を活かした新エネルギーの導入促進と省エネルギー推進を図るために策定された『地域エネルギービジョン(H24～H33)』の実効性を高めるべく、具体的な目標数値・推進施策を明示している。そこで、直近の市全体の電力消費量と太陽光発電受給電力量を伺う。

答 計画に基づく各種の事業推進により市全体の電力消費量は、中部電力㈱の資料によると平成26年度:833,526MWh、27年度:816,430MWhと減少し省エネ化が進んでいる。一方、中部電力が購入した太陽光発電受給電力量は、26年度:28,119MWh、27年度:36,646MWh、28年度:42,334MWhと新エネルギーによる受給電力量は増加している。

問 推進している太陽光発電設備の一般家屋等での設置件数および発電設備の最大出力を伺う。

答 中部電力㈱の資料によると、平成28年度末における設置件数は5,705件で市内家屋棟数の17.4%になっている。最大出力の累計は42,700kWである。

問 森林間伐材等のバイオマス燃料利用施設の目標数は平成33年度までに5施設であるが、現状と今後の方策を伺う。

答 現在は岡部にある県木材組合の1施設で製材の乾燥に利用している。また、平成27年度に実施したバイオマス燃料利用施設の事業可能性調査では、瀬戸谷温泉での薪ボイラー導入の有効性・可能性が把握できた。今後は、間伐材等を利用した「地域内エコシステム構築」に向けて、材の供給ルートや施設用地等の課題を関係者と協議・検討し進めていく。

問 生ごみ再利用について、家庭用単体型ディスポーザーを普及させれば、浄化センターで今秋から稼働する消化ガス発電に寄与すると考えるがどうか。

答 ディスポーザーにより粉碎された生ごみを公共下水道に排出すれば、消化ガス発電の発電量を増やすことに繋がる。また、国等の研究によりディスポーザーの使用は下水道や浄化センターに「悪影響はない」との結果もあるので導入の可能性を検討する。



生ごみをディスポーザー処理すれば消化ガス発電に寄与します!



藤新会

遠藤 孝 議員

特殊出生率向上に向けて

問 出会いから結婚・出産しやすい環境づくりは

答 再就職支援として、パソコン講座の開催など、ディーセントライフ事業の展開ほか、国家資格取得経費を補助し、女性が働きやすい環境づくりに取組む。

問 経済的不安が軽減される仕組みは

答 母子家庭等児童支援金を支給し、中学生までの医療費助成など、経済的な子育て支援を行っている。

問 安心して出産、子育てできる医療体制の整備は

答 市立総合病院を拠点として、志太医師会を始め、医療機関と連携を図り、十分な産科医療を提供している。

問 不妊治療費の全額無償化を図りたいが

答 新たに不育症治療費助成を開始し、助成対象を拡大、治療費が相当高額の場合があるので研究する。

問 不妊治療費の助成により、治療の成果は

答 平成28年度助成を受けた151人のうち58人、約4割の方の妊娠が確認できた。

問 助成を受けた場合の自己負担額は



答 1件当たり48,000円であった。

問 県の補助金を有効活用した子育て支援の取組は

答 保育士、幼稚園教諭の人材確保と働きやすい職場づくりのための手引書の作成、「あかちゃん駅」の設置促進などである。

土砂災害や河川の治水対策、橋梁の修繕工事は

問 土砂災害等の危険個所に対する施設整備は

答 土砂災害危険個所の785箇所のうち、213箇所は事業採択が可能で、107箇所施設整備が概ね完成。残りは国へ予算確保に働きかけ、県に事業費確保を要請していく。

問 河川改修事業の早期完成と堆積土砂の除去は

答 県から雨季前対策予算約3千万円を増額、4河川で実施、2か年計画のため、今後も予算を確保するように県に強く要望していく。

問 橋梁の補修計画。耐震化、付け替え等の見直しについて

答 平成28年度451橋の点検を実施、25橋は早期に措置が必要と診断、29年は8橋、30年は7橋、残10橋は33年までに修繕を完了する予定である。

旧アピタ藤枝店の建物取り壊しと今後について

問 具体的な再開発プランを聞いているか

答 建物解体を決め、早期にプランを決定していく。

問 効果的な土地の利活用に向けた支援は

答 生活利便性の高い中心市街地の最重要地点であり、所有者や開発業者と連携を図り、全庁あげて支援する。



藤 新 会

数崎 幸裕 議員

シティ・プロモーション事業について

〈蓮華寺池公園再整備事業について〉

問 中腹の散策道を拡幅し長藤を植えるべき。駐車場有料化は。

答 魅力的で人々が集う公園、日本一の藤の里を目指す。駐車場の有料化は考えていない。

問 藤は長藤が1番だ。蓮の花も見事に咲くように。駐車場を3階の立体に、そうすれば渋滞も緩和、小学校の保護者、サッカー見学者も自由に使える。〈志太郡衙史跡をみんなが親しめる場所に〉

問 駐車場の確保を、その為に横の川を駐車場に。

答 史跡の現状変更は難しいが、川の駐車場は検討。

問 模倣的郡役所・木の柱に木の皮の屋根の建物。等身大の役人を置き、子供も大人も学べる場所に。

〈田中城下屋敷の現状の課題は〉

問 施設が手狭で誘客にも苦労しているのでは。

答 各種イベント等を開催、施設の改築も必要。

〈玉露の里の運営と施設・橋の架橋を〉

問 2千万円の委託金は妥当か。

答 施設運営に支障がないよう、瓢月亭の入場想定入館料を差し引いた金額。

問 茶の華亭から瓢月亭に木の歩道橋を。

答 当面、架橋の計画は無い。

問 鷺田橋の架け替えまたは赤い欄干に。

答 橋幅の狭いのは承知している。架け替えは今は無理。

問 外国人の観光客は本格的な茶の文化と地域の風土が日本の原風景と映っている。それに赤いこの橋があれば玉露の里のシンボルになる。



玉露の里 瓢月亭

〈内野本陣史跡について〉

問 今の遺構だけでは淋しい、更なる整備を。

答 内野本陣の資料が乏しい、遺構は重要だ。

問 本陣の遺構は重要でない、模倣的本陣か古民家を移築して東海道の街道文化の常設資料館を。

〈岡部あさひな保育園について〉

問 朝比奈地区には待機児童は出ないと思っていたが本年度、6人の入園希望で3人の待機児童が出た。改善すべきだ。

答 園そのものは定数割れ、今後は待機児童が出ないように要項の弾力的運用をしていく。

問 藤枝駅周辺を志太・榛原1番の繁華街に「5時からのまち」でもいい、それが中心市街地活性化だ。



市民クラブ

鈴木 岳幸 議員

妊活の支援について

問 妊娠を望んでいてもなかなか授かる事ができないご夫婦が市内にも多くいる。そこで、妊活に対する支援の現状と実績についてと、今後の妊活支援の進め方について伺う。

答 妊活支援として、不妊治療費及び不育症治療費の一部助成を行っている。昨年度は不妊治療に延べ203件の助成を行い、助成を受けた計151人の内58人、約4割の方の妊娠が確認でき、大変喜ばれている。本年度から不育症治療費の助成を開始しており、助成対象となる治療を拡大した。今後も県と連携し、ご夫婦への心理的支援、受診促進、治療費助成など、多角的な妊活支援を実施していく。



妊活の支援が進んでいます

問 市の職員の妊活を支援する仕組みはあるか。

答 本市の職員が不妊治療を行う場合、有給休暇等を利用して対応している。不妊治療に要する日数が有給休暇の日数を超えてしまうという相談は、今のところ無いが、今後は休暇制度を含む新たな支援制度を検討し、安心して妊娠・出産ができる職場環境づくりを進めていく。

環境問題について

問 市内では現在、どのような環境問題があるか。

答 自然環境のうち、大気環境・河川水質については良好な状態を保っているが、森林や農地については、担い手不足により、荒廃していく事が懸念される。また地球温暖化は、各地で頻発するゲリラ豪雨の要因と見られ、河川氾濫や土砂災害に直結する事から、温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を削減すべく、省エネ意識を一層高める必要がある。

問 環境教育を今後どう進めていくか伺う。

答 かけがえのない藤枝の環境を次世代に残していく為に、家庭・学校・地域による環境教育が重要であり、各年代に応じた環境教育を実施することが大切である。本年度からは環境人材育成事業を実施し小中学校のニーズに応じた教材の提供や、講座の開催を進めている。また、市内の高校生をハワイでの環境学習に派遣し、日本や地球全体の環境保全の担い手となる人材の育成を目指している。



藤新会

水野 明 議員

産業としごとを創る健康都市について

問 「中小企業の成長基盤づくりについて」 伺う。

答 藤枝型支援として、産学官金の連携を大前提に各支援機関が参加する「藤枝エコノミックガーデニング推進戦略協議会」を開催し、施策の情報共有や協議を重ね、起業から成長まで切れ目のない支援体制を構築した。小規模事業者が抱える市場動向の情報収集や設備資金調達等の課題に対応するため、事業所訪問による相談・指導やメールマガジンによる小規模事業者向け補助・融資制度の紹介など、支援機関と連携しながら進めていく。今後は、BiVi藤枝にオープンする「産学官連携推進センター」を拠点とし、より連携した支援環境づくりを進めていく。



10月11日にオープンした、藤枝市産学官連携推進センター

問 「Shida Business Challenge」(旧シダビス)の実績と今後の展開について伺う。

答 過去4年間で延べ1,483人が参加し、起業を志す方々の受け皿として役割を担ってきた。飲食業や小売業など約40件の創業者を輩出している。本年度、島田市と「志太2市連携起業チャレンジ推進協議会」を組織した。今後も、一層の広域連携による起業家の掘り起こしや支援展開に取り組んでいく。

問 「内陸フロンティアパーク「藤枝たかた」の応募状況について」 伺う。

答 8.4haに用意する7区画の数を優に超える企業から応募があった。今後、地域産業の振興や雇用の創出などに、より貢献いただける企業を選定し、県とも連携し着実な事業推進を図っていく。

問 「藤枝市・恵庭市農商工連携ネットワークの進捗状況について」 伺う。

答 去る8月9日にマッチング商談会が行われ、本市から10社、恵庭市から12社の参加があった。相互の事業者や農業生産者の連携による、販路開拓・ブランドづくりにつながるよう支援していく。

問 「障害者に対する労働環境について」 伺う。

答 障害者の雇用の拡大や、就労定着の支援に向け、関係機関と連携を図りながら企業を訪問し、協力をお願いしている。昨年度の本市の雇用率は2.19%で、前年比で県平均伸び率の3倍となり着実に成果が上がっている。労働環境の更なる向上を図っていく。



市民クラブ

岡村 好男 議員

広域連携の強化について

問 東名スマートIC周辺における焼津市の土地利用構想を市長は把握しているのか、またその

規模によっては、本市の中心市街地に影響するが伺う。

答 東名スマートIC周辺については、設置経緯からも、藤枝焼津両市共有のまちづくりの一大拠点と認識している。そのため、焼津市とは国土計画を共に策定し担当レベルで意見交換をしてきたが、最近になって焼津市より、上泉地区における街づくり構想として、雇用創出と定住誘導に向けて、主に商業利用を図りたい旨の話があった。内容や計画規模によっては議員ご指摘のとおり、本市中心市街地、周辺自治体にも大きな影響があることから、これから詳しく伺っていく。

問 本市として、東名スマートIC周辺全体の土地利用について、どのような検討をしているのか伺う。

答 本市では昨年度より、焼津市と共に策定した国土利用計画の新産業ゾーンという位置づけの下、優良農地や広域アクセスという立地特性を生かし農を中心とした地域振興拠点や物流機能も含めた新産業拠点の形成等を検討している。

問 防災面での焼津市との連携と、市境地区の避難場所受け入れ体制は確保されているか伺う。

答 巨大地震の発生時に備えて、中部5市2町で相互応援協定を締結し、特に焼津市とは個別にも締結しており、避難される方の場所の受け入れ体制、又、志太消防本部による常日頃の両市内での、災害に対する万全な体制を確保している。

問 小石川・黒石川流域総合的治水対策協議会は、どのような協議を行っているのか伺う。

答 浸水実態、原因の調査分析、河川改修、取水堰の統廃合等の整備効果について協議している。

問 高洲兵太夫下地区の市境箇所、県道焼津線から小石川に向かう道水路改善要望のそれぞれの進捗を伺う。

答 この兵太夫下の要望は、協議を一時中断したが、改めて協議再開のお願いし了解を得た。問題意識をもって協議を進めていきたい。築地地区の要望についても同様の対応をとっていく。



6.21 ゲリラ豪雨 黒石川萬蔵橋



藤新会
油井 和行 議員

藤枝市の環境問題について

問 もったいない運動の推進と今後の展開について

答 市民参加型の体験イベントや環境フェスタ、12月の“もったいない”市民のつどいを実施。環境行動を意識させる、「わが家の節電キャンペーン」、「エコファミリー宣言」、「環境マイレージ」などの仕組みを構築した。さらに、環境リーダーを基点に、市民一人ひとりの環境に対する意識を高め、環境に優しいライフスタイルを定着させるよう努める。

問 3R「リデュース・リユース・リサイクル」について

答 3Rの取組は、循環型社会及び低炭素社会を構築する基本となっている。リユースの推進は、地区交流センターに設置した回収ボックスの古着が海外で再使用されている。

問 子ども子育て支援として、ベビーカー・絵本等のリユースはどうか？

答 ごみのステーションに排出されたものは、廃棄物になるため、適正に処理することになる。本市では、子育て支援の関係部署が窓口となって、不要に

なった子育て関連用品の譲渡会を実施している事例がある。今後は子育て支援以外でも先進的な事例があれば調査・研究していく。

問 健康福祉部としてどう考えますか

答 藤枝子ども広場、きすみれ内ちびっ子ルームで年に数回譲渡会が実施されている。環境日本一を目指す本市には非常に良い取り組みと考え、他の全ての子育て支援センターへの拡大、子育てフェスタ等イベントでの実施も十分考えられる。県の補助金事業として採択されれば子育て関連グッズ譲渡会の実施も計画していく。



ベビーカーのリユース

空き家・空き店舗の現状と対策について

問 空き店舗の発生を未然に防ぐ対策・マッチングについて

答 商店街を通して貸す・貸さないの調査もし、情報のアップデートもしながら広く公開していく。貸す意志があれば店舗を二つにして、トイレも分ける。入口を分けるといった助成制度もあるので紹介様々な施策について働きかけをしていき、空き店舗の解消に努めていきたいと考えています。



志太創生会
遠藤久仁雄 議員

駿河台地区のカワウ被害と今後の対策について
～果たして住民の生活を守ることができるのか～

問 問題となっている調整池(塩出池)には、10年以上にわたりカワウが飛来し、近年はコロニー(繁殖地)を形成している。特に今年は春以降、急にカワウの個体数が増え、500羽を超えるまでになった。これにより地域住民の被った被害(糞尿による悪臭や樹木の枯死、早朝からの騒々しい鳴き声、その他内水面での漁業被害や景観悪化等)に対し、市当局としてどのように感じているか。

答 市として、カワウの習性について手をこまねいていたのも、事実である。そして、住民の方にご迷惑をおかけしていることは、行政として改めてお詫び申し上げます。

問 調整池の水の汚れは、永遠に解消できないのか。

答 池自体の浄化・清掃に早急に対応し、市として責任を持ってやりたい。

問 調整池の水位を下げるという案も示された。これにより新たに水の流れが生まれるということは理解できたが、考えてみると果たしてこの調整池に普

段から水を溜めておくことは必要なのか。

答 30年以上も前の図面を見ると、水底はコンクリートで固められてはいない。砂岩のような土砂が敷かれていて、水は地下に浸透していくような構造になっている。今後、よりよい方法を考える。

問 調整池は、四方を高いフェンスに囲まれ人が侵入できないので、カワウにとってはパラダイスだ。警戒心の強いカワウに対し、人が近づくことにより追い出し効果があると考えられる。出入り口の鍵を地域に貸与してもらうことはできないのか。

答 危険な箇所なので、一般の人が侵入できないように注意している。限られた少数の人員が出入りするというやり方で、責任ある人に貸し出しを行う方向で考えたい。

問 今は樹木を伐採してもらったので、多くのカワウはどこかへ飛んで行った。だがこれは駿河台だけの問題ではなく、広い意味での環境問題だ。今後は市と住民が協力し、いわゆる官民一体となってカワウ対策にあたるのが大切だと考える。県にも働き掛けを行っていきたくので、よろしくお願



明け方、餌場に向かうカワウたち



日本共産党

石井 通春 議員

高すぎる国保税の値下げを求め、広域化で値上げをしない取組を

問 来年度から国民健康保険の運営が市から県に移管される。

保険税額決定は従来通り市が行うが、県が定める納付金を100%納めなければならない制度となる。市が集めた税総額が納付金額に達しない場合、他の財源から埋め合わせ等行い値上げをしないか。

答 今年度、国保会計で生じている3億円余の基金を活用し、市民負担をかけない。

問 それは良いことだが、一方で3億円の基金は毎年生じるものではない。来年度以降は一般会計から国保会計への繰り入れなどで対処するか。

答 一般会計の可能性を含めて、加入者への影響を考慮する中で総合的に判断する。

問 将来の県下統一保険税を見据えて、広域化に伴い“標準保険料率”を県が示してくるが、各市の検診実績など無視したものである。あくまでも“参考”という扱いにとどめるか。

答 必要な財源として、参考にするものである。

問 国保会計は例年黒字決算である(平成26年1億1千万円、平成27年8千万円、平成28年3億8千

万円)の黒字)一般会計からの国保会計への赤字繰り入れも行われていない。私の公約でもある国保値下げ(例えば、所得に関係なく課税される均等割部分、中学生以下の子供保険税年額32000円を5000円値下げに必要な財源は1200万円)も検討する時期に来ているのではないか。

答 国が広域化に際し、子供の被保険者数に着目した公費の拡充を検討している。この動向を見極めつつ検討する。

問 所得減による国保税減免制度、窓口負担の減免制度は制度がありつつほとんど活用されていない。平成24年2月議会で改善を求めたが実態は。

答 国保日より等掲載方法を改善した。税減免は数件の実績はあるが窓口負担減免の実績はない。

問 困っている市民に制度をお知らせし申請に結びつける新たな担当課が係が必要ではないか。

答 現在の各部署における折衝で減免対象となるケースがあれば国保年金課につなげ制度利用を促していく。



広域化で県内11市町が値上げ(藤枝市はわからないと回答) 8月27日静岡新聞



藤新会

植田 裕明 議員

健康施策のさらなる推進について

問 健康・予防日本一の現状と今後の展望

答 基幹事業「健康マイレージ」の現状だが、7月末時点での参加者は、2,408名となっている。

特に、スマートフォンなどで利用できる「健康マイレージWeb版」や「楽しく歩いて健康アプリ〜あるくら〜」を提供したことで、メインターゲットである働き盛り世代の参加者が飛躍的に伸び、多くの世代に取り組んでもらえる施策となりつつある。

問 健康施策の新たな試みは?

答 健康先進都市を標榜する本市が独自に開発した健康ツールによる「健康経営」の施策を、来年度から本格的に進め、地域・事業所・家庭それぞれにアプローチして、藤枝をまるごと元気にしていくよう展開していきたい。

具体的には、静岡県が取り組む「しずおかまるごと健康経営プロジェクト推進事業」と足並みを揃え、市内企業と協力して、働き盛り世代の健康増進から企業の経営強化につなげる「健康経営」の実践を強力にサポートし、地域や家庭での食育の推進と合わ

せて、市民の健康のボトムアップを図っていく。

さらに、日々進化しているICTを活用した健康施策も今後、不可欠であると考えており、本市が実証実験の場になっているIoTにより、健康行動がどのように健康に結びつくか確認できるシステム、いわゆる健康状態の見える化などについて、民間事業者と連携して研究していきたい。



健康アプリ〜あるくら〜

厳しい医療環境が想定される今後、病院事業の経営戦略について

問 黒字経営をめざす上の対処法

答 本年4月に指定を受けた救命救急センターを始め、ICU・NICUという高度医療を提供できる体制が整っており、これらを最大限に生かしつつ、診療報酬を確実に確保していきたいと考えている。

また、志太榛原医療圏域で唯一の国指定のがん診療連携拠点病院として、平成27年に導入した放射線治療装置リニアックを十二分に有効活用し、患部にピンポイントで放射線を照射し、治療を行う定位放射線治療により、さらに多くの実績を重ねていく。



藤新会

杉山 猛志 議員

介護保険制度改正に伴う課題について

〈2015年介護保険制度改正後の状況について〉

問 高額所得者の費用負担額改定の影響を伺う。

答 本年8月1日時点で、2割の負担割合証交付件数は613人、介護保険認定者のうち約1割が2割負担となる。負担限度額を超えても、超えた部分は高額サービス費を給付するので自己負担額に影響は無い。

問 在宅介護を受けている人の入所について伺う。

答 昨年度の調査では、自宅介護を望む声が6割～7割を占める。多様な事業所の整備、医療・介護の連携、認知症の相談や支援、支え合いの地域づくり、介護をする家族の支援強化を行う。

〈第6次ふじえだ介護・福祉ぷらん21について〉

問 地域の支え合いをどう進めるか伺う。

答 本年度から社協と連携して市内10地区担当の生活支援コーディネーターを配置。母体となる協議体の準備や相談、調整を進める。3地区で協議体を上げた。他の地区でも懇談会・福祉講演会を開催した。

藤枝市の働き方改革について

問 働き方改革の具体的な動きと進め方を伺う。

答 本年度は企画政策課に「働き方改革担当」を配置して新公共経営の再構築を進めている。改革の重点項目は「職員の健康増進」「組織マネジメントの強化」「職員がいきいきと働き、能力を発揮できる環境創出」。今後は、定員管理計画を見直し、柔軟な働き方の手法として勤務時間の選択制度（仕事や家庭の状況に合わせて出勤時間帯をずらせる仕組み）や、ICTを活用したテレワーク導入の検討を進める。

問 テレワーク導入はどの様に考えているか伺う。

答 時間や場所にとらわれない働き方として、育児中の職員や家族介護を抱える職員が、仕事と両立できる環境を目指すもの。まずは課題整理をしながら試行という形でスタートさせていきたい。

問 働き方改革について職員組合との協議を伺う。

答 定員管理計画の見直しできめ細やかな人員配置を求められている。先進自治体の取り組みも参考に職員組合と協議を重ねて理解を得ながら進める。



市民クラブ

天野 正孝 議員

人口動態から見る藤枝市の未来への市政の展開

問 藤枝市としては最終確保人口をどう考えて今後の総合計画を立てていかれるのか伺う。

答 第5次総合計画では、長期的な50年後の目標人口を、約11万6千人と設定した上で、計画最終年度である平成32年度の目標人口を14万4千人と設定し実効性のある施策を展開していく。

問 子育て支援計画の見直し問題について伺う。

答 保育施設等の整備については、本年度、子育て支援計画の中間見直しの中で改めて必要量を推計し、保育定員の確保を図っていく。3年間をかけて、県の「ふじのくに地域少子化突破戦略応援事業費補助金」を活用し、保育士等の働きやすい職場づくりと、あかちゃん駅の設置促進、産前産後のサポートなどの事業に取り組む。

問 小中一貫教育を含めて教育環境について今後市内自治会町内会にどう働きかけをしていくのか伺う。

答 本年3月に策定した、藤枝市小中一貫教育推進計画に基づき、平成33年度を目標年度として、中学校区ごとに、自治会・町内会の代表者の参画のも

と小中一貫教育に向けた協議会の設立を進めている。

問 企業誘致における補助支援、空き家対策などの住環境の確保支援、農業や商業、建築業等の市内産業への支援を伺う。

答 内陸フロンティアパーク「藤枝たかた」工業用地分譲に向けて取り組むほか、民間遊休地の情報収集・利用促進による企業誘致を図る。中山間地域への優良田園住宅導入による住宅建設の促進、空き家等の適正管理・有効活用等、住環境を充実していく。

問 交流人口増対策や観光産業支援について伺う。

答 県や市観光協会、近隣市町等と連携し、観光プロモーションを展開し、ホームページやSNS、テレビ、新聞等のメディアを通じて、本市の観光情報を発信し、来訪・交流人口の拡大に努めている。

問 第7次介護保険計画策定に向けての考えを伺う。

答 来年度から3年間の「高齢者保健福祉計画」と「介護保険事業計画」を一体化した「第7次ふじえだ介護・福祉ぷらん21」の策定作業を進めている。



れんげじスマイルホール

第9回

病院ふれあいフェスタ

平成29年10月21日(土)、市立総合病院で開催された「病院ふれあいフェスタ」に市議会で参加しました。当日はあいにく雨が降りましたが、多くの親子連れでにぎわいました。藤枝市議会で出店したポップコーン・綿菓子コーナーには行列ができ、輪投げに参加した子供たちも笑顔で楽しんでいました。



11月市議会定例会

11月市議会定例会は、11月27日(月)から12月21日(木)までの25日間の会期で開かれる予定です。

- 11月27日(月) 本会議 1日目 (※)・議案上程
- 12月6日(水) 本会議 2日目 (※)・一般質問
- 7日(木) 本会議 3日目 (※)・一般質問
- 8日(金) 本会議 4日目 (※)
一般質問・議案質疑
- 11日(月) 現地審査
- 12日(火) 常任委員会
- 13日(水) 常任委員会
- 21日(木) 本会議 5日目 (※)
採決



(※) インターネットでもご覧いただけます。

議会を傍聴しませんか

議会は、どなたでも傍聴することができます。皆様の生活に直結した重要な問題が審議されます。お気軽にお越しください。



受付にて傍聴券を受けとっていただくだけで、住所、氏名などを記入していただく必要がなくなりました。

【問い合わせ】 議会事務局 ☎643-3552

本会議の様子 **議会中継** や
議会会議録 が藤枝市議会ホームページでご覧いただけます。

藤枝市議会

検索



議会だより表紙の写真・イラスト等募集!

市議会では、年4回(5月・8月・11月・1月)ふじえだ市議会だよりを発行しています。開かれた議会を目指し、より市民に親しまれる「ふじえだ市議会だより」にするため、表紙の写真・イラスト等を募集します。

● 募集する写真・イラスト等

- **写真の場合**…市内で撮影された人物・四季折々の風景・まつり・学校行事・地域行事等の各種イベントの写真。
- **イラストの場合**…市内在住、通勤、通学の方が作成したイラスト等。

● 応募方法

住所・氏名・電話番号・写真の場合(撮影場所・撮影日時を記入の上)、議会事務局へメール、もしくは郵送・持参してください。

● 応募上の条件

- **写真の場合**…市内で撮影されたもの。
- **イラストの場合**…市内在住、通勤、通学の方が作成したイラスト等。
- 被写体が人物の場合又は個人の所有物である場合は、必ず被写体ご本人(未成年者の場合は保護者)又は、所有者の承諾を得てください。
- 採用作品の著作権は、市議会に帰属するものとします。
- ご応募いただいた写真は原則返却いたしませんので、予めご了承ください。

● 選考方法

市議会広報広聴委員会で決定し、掲載します。

● 応募の締め切り

1月20日号の締切⇒平成29年12月6日(水)

※詳細について、藤枝市議会ホームページをご覧ください。議会事務局へお問い合わせください。

お問い合わせ

藤枝市議会事務局(市議会広報広聴委員会)

住所: 〒426-8722 藤枝市岡上山1-11-1

電話: 054-643-3552

メール: gikai@city.fujieda.shizuoka.jp



「夏祭りのフィナーレ」
大新島町内会 撮影: 吉田征一さん



「稲葉のとうろん」
寺島河川敷公園 撮影: 西谷隆さん

議会タウンミーティング 開催のお知らせ

市議会では、開かれた議会を目指して議会の広報広聴活動の充実に取り組んでおります。

その一環として、議会活動の内容を市民の皆様にお知らせし、ご意見をいただくための「議会タウンミーティング」を開催しています。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

《開催日時・会場》

- 10月28日(土)午後2時00分～
 - 葉梨地区交流センター **大会議室**
 - 大洲地区交流センター **集会室**
- 11月25日(土)午後2時00分～
 - 広幡地区交流センター **大会議室**
 - 青島北地区交流センター **集会室**

《概要(予定)》

- 1 議会報告
- 2 意見交換

《参加方法》

申し込みは不要です。直接会場にお越しください。



※市議会だより203号にてお知らせしました日程が変更になりました。

編集後記

7年前から実施しております、市議会と市民の皆様との意見交換会(タウンミーティング)が今年も開催されました。

成功の為、広報委員会も長野県飯田市や東京都羽村市など、先進市を視察してきましたが、いかに大勢の方に来ていただけるか、どこも試行錯誤のようです。場所や時間の問題もありますが、「また来てみたい」と思っていただける充実がある内容にする事が大事だと思います。皆様からの「ご意見」を是非お聞かせください。

委員 石井 通春

